

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|------|----|---------|----|-------|-------|-----|-----|
| 講義コード | 11C0122000 | 授業形態 | 講義 | 事前登録の有無 | なし | 担当教員 | 北原 克宣 | 開講期 | 第2期 |
| 科目名 | 農業経済学2 | | | | | 北原 克宣 | | 第2期 | |
| 履修前条件 | | | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 農業経済は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、前期には農業経済の基礎理論および世界の食料需給動向の実態を説明する。後期には日本における農業・食料問題の歴史および現状と食料・農業政策の現状と課題について説明する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。 | | | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、60時間以上の授業外学修を行うこと。 | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>【第1回】現代の農業政策の課題</p> <p>【第2回】農業問題の発生と農業政策－農業政策はなぜ必要になったか－</p> <p>【第3回】戦後日本における農業政策の展開－戦後改革と食糧増産政策－</p> <p>【第4回】戦後日本における農業政策の展開－基本法農政・総合農政－</p> <p>【第5回】戦後日本における農業政策の展開－地域農政－</p> <p>【第6回】戦後日本における農業政策の展開－ガット・ウルグアイラウンドと農政の転換－</p> <p>【第7回】戦後日本における農業政策の展開－新自由主義的農政－</p> <p>【第8回】農産物価格・直接支払い政策の課題</p> <p>【第9回】農業構造政策の課題</p> <p>【第10回】地域政策の課題</p> <p>【第11回】農業協同組合の役割と課題</p> <p>【第12回】TPP・FTAと農業政策</p> <p>【第13回】欧米における農業政策－アメリカ・EUを中心に－</p> <p>【第14回】アジアにおける農業政策－中国・韓国を中心に－</p> <p>【第15回】これからの農業・食料政策の課題</p> | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | | | | | | | |
| フィードバックの内容 | リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。 | | | | | | | | |
| 教科書 | | | | | | | | | |
| 指定図書 | 『再生産構造と地代理論』姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』保志尙 ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年 | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 農業や農村とは縁の薄い人でも、毎日の食事は欠かさないでしょう。その食事の元になる食料を生産しているのが農業であり、農家の人たちです。本講義の受講を希望する人は、自分が毎日の食事で食しているものが、どこで、どのように作られ、どのようにして食卓まで届いているのかということに興味を持つことから始めて下さい。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。講義時に声をかけて頂ければ、日程を調整します。 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |